

第10問	民法	遺留分	司法試験R3-35
------	----	-----	-----------

〔第10問〕

遺留分に関する次のアからオまでの各記述のうち、誤っているものを組み合わせたものは、後記1から5までのうちどれか。

- ア. 相続人が配偶者と妹一人のみであった場合には、妹は、遺留分を算定するための財産の価額に8分の1を乗じた額を遺留分として受ける。
- イ. 遺留分を算定するための財産の価額は、被相続人が相続開始の時ににおいて有した財産の価額にその贈与した財産の価額を加えた額から債務の全額を控除した額である。
- ウ. 相続開始前における遺留分の放棄は、家庭裁判所の許可を受けたときに限り、その効力を生ずる。
- エ. 共同相続人の一人が遺留分を放棄した場合は、他の各共同相続人の遺留分が増加する。
- オ. 遺留分権利者は、受遺者又は受贈者に対し、遺留分侵害額に相当する金銭の支払を請求することができる。

1. ア ウ 2. ア エ 3. イ エ 4. イ オ 5. ウ オ

第10問	民法	遺留分	正解 2
------	----	-----	------

ア誤り。 1042条1項柱書。兄弟姉妹以外の相続人は、遺留分として、次条第1項に規定する遺留分を算定するための財産の価額に、次の各号に掲げる区分に応じてそれぞれ当該各号に定める割合を乗じた額を受ける。

その趣旨は、遺留分制度は、被相続人の財産処分を前提とした上で、配偶者・直系卑属・直系尊属が一定額の相続上の利益を確保することを目的としていることを考慮した点にある。

したがって、本記述は、妹が遺留分を有するとしている点で、誤っている。

イ正しい。 1043条1項。遺留分を算定するための財産の価額は、被相続人が相続開始の時ににおいて有した財産の価額にその贈与した財産の価額を加えた額から債務の全額を控除した額とする。

なお、「相続開始の時ににおいて有した財産」には、遺贈や死因贈与の価額を含み、「債務」には、私法上の債務のみならず公法上の債務も含まれるが、相続財産に関する費用（885条）や遺言執行に関する費用（1021条）は除かれる。

したがって、本記述は正しい。

ウ正しい。 1049条1項。相続の開始前における遺留分の放棄は、家庭裁判所の許可を受けたときに限り、その効力を生ずる。

その趣旨は、遺留分権利者が被相続人や他の相続人の圧力によって放棄を強いられることを回避する点にある。

したがって、本記述は正しい。

エ誤り。 1049条2項。共同相続人の1人のした遺留分の放棄は、他の各共同相続人の遺留分に影響を及ぼさない。遺留分の放棄は、遺産の集中を図るためにされた遺贈や贈与の効力を失わせない目的でなされるものであり、これがなされると、被相続人が自由に処分することができる財産が増加することになる。

したがって、本記述は、他の各共同相続人の遺留分が増加するとしている点で、誤っている。

オ正しい。 1046条1項。遺留分権利者及びその承継人は、受遺者（特定財産承継遺言により財産を承継し又は相続分の指定を受けた相続人を含む。以下この章において同じ。）又は受贈者に対し、遺留分侵害額に相当する金銭の支払を請求することができる。

その趣旨は、遺留分制度は、遺留分権利者の生活保障や遺産の形成に貢献した遺留分権利者の潜在的持分の清算等を目的とするものであり、遺留分権利者に遺留分侵害額に相当する価値を返還させることで十分といえる点にある。

したがって、本記述は正しい。

以上により、誤っている記述はアとエであり、したがって、正解は肢2となる。

【MEMO】